

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	既存養蚕農家の繭生産量の拡大並びに新規養蚕農家が新たに繭を生産することにより生計が向上する。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>【事業開始の背景と成果】</p> <p>砂糖の生産量がフィリピン全体の 6 割強を占めるネグロス島。1980 年代半ばには砂糖の国際価格の暴落により、山間地を中心に一時「飢餓の島」となった。1989 年、窮状を打破するため西ネグロス州政府から協力要請を受けた当法人は調査を開始。生活の基盤再生に養蚕が適していると判断し、専門家派遣、資機材供与、訪日研修などによる養蚕の普及活動をスタートした。</p> <p>元来、フィリピンはパイナップルやアバカ（バナナの種類）の繊維を用いた繊維業が盛んであり、縦糸の生糸を中国から輸入している。国際機関等の協力も得ながら、同国の農業省、科学技術省、文部省を中心に全国規模で養蚕普及に力を入れ自国生産を目指してきた経緯があるが、目立った成果は見られていない。</p> <p>それに対し当法人の普及事業では、養蚕農家 270 戸、生繭 15 t、生糸生産量においては比国全体の 95%を占めるまでの成果をあげている（2013 年 7 月現在）。また、小規模ながら蚕種製造から織物作りまで一連の工程を確立するに至っており、世界に類を見ない事例として国内外から評価は高い。養蚕を始めた農家の年収は 1.5～2 倍に増え、生計向上にも大きな成果を上げている。未だ貧困に窮する多くの農民が養蚕への参加を強く希望している現状を受け、州政府農業局は積極的な後押しを行っている。</p> <p>【今後の展望と課題】</p> <p>農地改革省も養蚕導入に強い関心を示し、同州カバンラン市事務所の一部を稚蚕所に改造するなど積極的な取り組みを見せている。さらに、比国政府農業省はネグロス養蚕の成果を受けて、今年に入り FIDA（繊維産業開発局）を通じて養蚕普及拡大計画を打ち出した。当然の如く当法人に対し協力の要請を行っているが、そこで問題となるのが、農家が蚕を生産する上で必要とされる蚕具の整備である。特に蔴（まぶし）と呼ばれる蚕具は必要不可欠とされる。しかし、既存の農家は全て日本からの中古蚕具類（新品含む）を活用して繭の生産を行っているが、比国内においては未だ同型の蚕具の生産は行われていないのが実情である。</p> <p>シルク事業においては、製品への関心の高まりから開発及びマーケティングに大きな期待が寄せられており、DTI（貿易産業省）の協力で技術者を派遣、地元女性 10 名に対し技術指導を行っている。日本からも機織りの専門家を派遣し、紡ぎ糸による新たな製品開発に向けた技術指導を行っており、新たに 10 名が機織り技術を学んでいる。一方で、機織り機の不足から技術の習得に時間を要しており、更なる機織り機の増設が望まれている。</p>

<p>(3) 事業内容</p>	<p>A. 農家にて回転簇（蚕具）の取り外し及び搬送 長野県辰野町（800 組）、群馬県富岡市（700 組）、山梨県南巨摩群富士川町（50 組）において回転簇を分解し、長野県辰野町の倉庫内に搬送する。</p> <p>B. 回転簇の修理、調整 回転簇の稼働具合を確認すると共に各部位の修理・調整を行う。</p> <p>C. 機織り機の解体、整備及び搬送 茨城県結城市の機織り会社にて機織り機 3 台を解体し、長野県辰野町の倉庫に搬送する。</p> <p>D. 上記の蚕具類及び機織り機の現地への輸送 整備後、3 台のコンテナにて名古屋港を経由して現地プロジェクトサイト（ネグロス島）に輸送する。</p> <p>E. 荷受けの確認及び受け渡し プロジェクト責任者及び州政府関係者の立会のもと荷受け品の確認を行い、シルク生産組合への受け渡しを行う。</p> <p>F. 各地区への配布及び指導 蚕具類は以下（a）～（g）の地区の担当責任者の管理のもと地区内の新規養蚕農家に配布する。 （a）カラトラバ町内、（b）サンカロス市内、（c）バゴ市内、（d）カバンカラン市内、（e）マビナイ町内、（f）ビクトリアス市内、（g）カディス市内に点在する新規養蚕地 各農家への配布はプロジェクト所有の車両を用いて行い、同時に地区の養蚕普及員が同行し、使用方法及びメンテナンスについての指導を行っていく。</p> <p>G. 機織り機はプロジェクトサイト（バゴ）の機織りセンターに設置し、DTI（貿易産業省）より派遣されている専門家が技術指導を行い、併せて管理方法等についても指導を行っていく。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>① 回転簇等の蚕具類の適切な活用法やメンテナンスはシルク生産組合の各地区担当者が農家への巡回指導を通じて常時行っていく。</p> <p>② 故障、破損が生じた場合はその都度修理方法の指導を行っていく。</p> <p>③ 大規模農家に対しては専門の技術者が簇の製作方法を指導し、現地でも生産出来ることを実証していく。</p> <p>④ シルク生産組合は州政府等の協力を得て、同型の蚕具類の生産体制を築いていく。</p> <p>⑤ 機織り機はプロジェクトサイトの機織りセンターに設置され、DTI（貿易産業省）の専門家指導のもと稼働及びメンテナンス指導が行われる。</p> <p>⑥ 現地には日本製の機織り機を真似て製作された経緯があり、シルク製品の増産を目指していく上で優れた同型の織り機の製作は十分可能であり、需要に応じて生産出来る体制が築かれている。</p>
<p>(5) 期待される成果と成</p>	<p>① 回転簇の導入により 1 年後には既存農家 270 戸が 350 戸に増加</p>

果を測る指標	<p>すると共に、将来は同型の蔴が現地で生産されていくことで更に養蚕農家の増加に繋がって行く。</p> <p>② 回転蔴の導入により病蚕の発生が抑えられることから、現在 15 t の繭量は 1 年後には 20 t に増加する。</p> <p>③ 新たな養蚕農家が誕生し、安定した繭生産を行えることで農家の収入は 1.5~2 倍に増える。</p> <p>④ 新たな日本製の機織り機の導入により様々な織物が可能となると共に 1 年後には近隣の女性を中心に織物が出来る人材が現在の 10 人から 20 人に増え、絹織物の生産量も現在の 1.5 倍に増えると予想されている。</p>
--------	---